

平成25年度 認定中心市街地活性化基本計画のフォローアップに関する報告

平成26年3月

帯広市（北海道）

○計画期間：平成25年4月～平成30年3月（5年0月）

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 平成25年度終了時点（平成26年3月31日時点）の中心市街地の概況

本市は、平成25年4月以降、第2期中心市街地活性化基本計画に基づき、計画に位置づけた45事業を推進している。中でも、計画の基本的方針である「街なか居住の促進」や「にぎわいの創出と魅力づくり」に大きな役割を担う2つの再開発事業は、西2・9西地区優良建築物等整備事業について半年程度の遅れはあるが、今のところ2つの事業とも完成時期に変更はない。

その他のソフト事業についても、すべての事業について着手、実施していることから、本計画は全体として概ね順調に進んでいるものと考えている。

また、計画を推進するため、関係者がこれまで以上の当事者意識を持って望むことが必要とされたことから、消費者や学生など幅広い立場から意見を聴取することを目的に、中心市街地活性化協議会によって「まちなか活性化懇談会」が4回開催され、学生等の幅広い層との意見交換を行ってきている。

計画開始から1年しか経過していないこともあり、直接的な効果が明確に現れてきている状況ではなく、街なか居住人口が平成25年度中に30人減少するなど、中心市街地の現状には厳しい面もある。しかし、先に述べたとおり、計画を着実に推進してきており、中心市街地活性化に向けた機運は高まってきていると考えられる。

2. 平成25年度 of 取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

平成25年度中にハード・ソフトの認定計画事業をすべて着手、実施した。官民それぞれの事業主体が、街なかに多くの人が行き来するよう工夫を凝らしながら賑わい創出に取り組んでいる。中でもハード整備事業である2つの再開発事業は、計画達成に向けて精力的な取組が予定されており、居住人口や歩行者通行量の目標達成に貢献するものと期待されている。

こうした中、認定計画事業に位置付けられた協議会独自事業として、商業者をはじめ、行政、商工会議所など関係者が集まり当事者意識を醸成する場として、「まちなか活性化懇談会」の開催を重ねている。大学生、短大生、高校生など若い世代との意見交換を行い、情報発信の重要性、車社会における中心市街地のあり方など貴重な意見が出されている。今後も、いろいろな世代から意見を聞き、体系的に整理していくことにより、市民の声をより反映した追加施策の立案につなげていきたいと考えている。

さらに、協議会では計画を効果的に推進するため、平成25年度に2つの部会を設置した。「中心市街地活性化のあり方検討部会」では、中心市街地を引き継いでいくために中長期的な展望に立った中心市街地の絵姿の議論を、また、「まちなか活性化懇談会部会」では、「まちなか活性化懇談会」の運営と各層から出された意見の整理・分析を、それぞれ行っている。

協議会も自ら主体となって市民との双方向のコミュニケーションを深めてきている事などから中心市街地活性化に向けた機運の高まりも感じられる。こうした中、当年度に予定された事業はすべて実施され、計画は全体として順調に進捗していると評価している。

Ⅱ. 目標毎のフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	前回の 見通し	今回の 見通し
街なか居住の促進により、居住人口の増を図る	街なか居住者数	2,817 (H24.3)	3,100 (H30.3)	2,755 (H26.3)	—	①
既存ストックの活用によるにぎわいの創出と魅力づくりにより、来街者、歩行者の増を図る	歩行者通行量(平日)	22,905 (H24)	24,000 (H29)	24,997 (H25)	—	①

<取組の進捗状況及び目標達成に関する見通しの分類>

- ①取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。
- ②取組の進捗状況は概ね予定どおりだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
- ③取組の進捗状況は予定どおりではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
- ④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

2. 目標達成見通しの理由

「街なか居住者数」については、本計画事業である「開広団地再整備事業」と「西2・9西地区優良建築物等整備事業」がほぼ計画どおり進捗しており、現段階では人口が微減しているが、事業が完了すれば予定どおりの住宅供給が想定されることから、目標達成が見込まれる。

「歩行者通行量（平日）」については、「広小路アーケード空間を活用した集客・回遊・滞留事業」等の各種ソフト事業の実施により、平成25年度において目標値を達成しているが、歩行者通行量はさまざまな要因により変動することから、先に述べた2つの再開発事業による居住と商業施設の整備、計画に位置づけた各事業の効果的な実施により、着実な目標達成に繋がっていく。

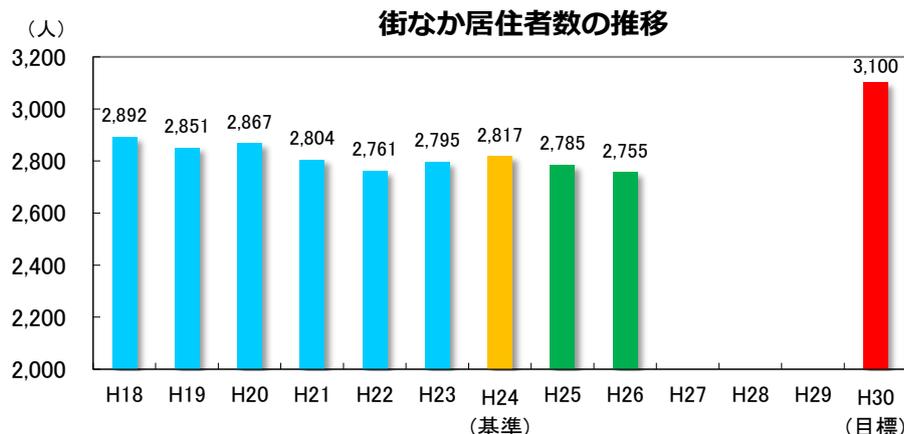
3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

本計画の初年度であるため、前回フォローアップは実施していない。

4. 目標指標毎のフォローアップ結果

「街なか居住者数」※目標設定の考え方基本計画 P55～P57 参照

●調査結果の推移



年	(単位)
H24	2,817 人 (基準年値)
H25	2,785 人
H26	2,755 人
H27	
H28	
H29	
H30	3,100 人 (目標値)

※調査方法：3月末の住民基本台帳より集計（※H23以前は9月末）

※調査月：4月

※調査主体：帯広市

※調査対象：中心市街地域

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 開広団地再整備事業（帯広市開広団地地区第一種市街地再開発事業個人施行者）

事業完了時期	平成26年度【未】
事業概要	過去に卸売団地として整備された地区において、機能の更新を図るため、高齢者向けの居住機能、デイサービス、賃貸住宅、商業施設などを有する施設の整備を行う。
事業効果及び進捗状況	平成26年3月末時点において、実施設計及び従前建物の除却を完了しており、同年4月より本体工事に着手する。 本事業による居住施設の整備により、240人程度の街なか居住者数の増加を見込んでいる。

●目標達成の見通し及び今後の対策

本事業については予定どおり進捗している。

今後も、平成27年2月頃の完成に向けて事業推進を図っていく。

②. 西2・9西地区優良建築物等整備事業（医療法人社団 博愛会）

事業完了時期	平成27年度【未】
事業概要	大型建築物の移転跡地に高齢者向けの住居やサービス施設、商業施設などの複合施設を整備する事業
事業効果及び進捗状況	平成26年3月に実施設計を完了しており、平成26～27年度で本体工事を実施する予定である。 本事業による居住施設の整備により、100人程度の街なか居住者数の増加を見込んでいる。

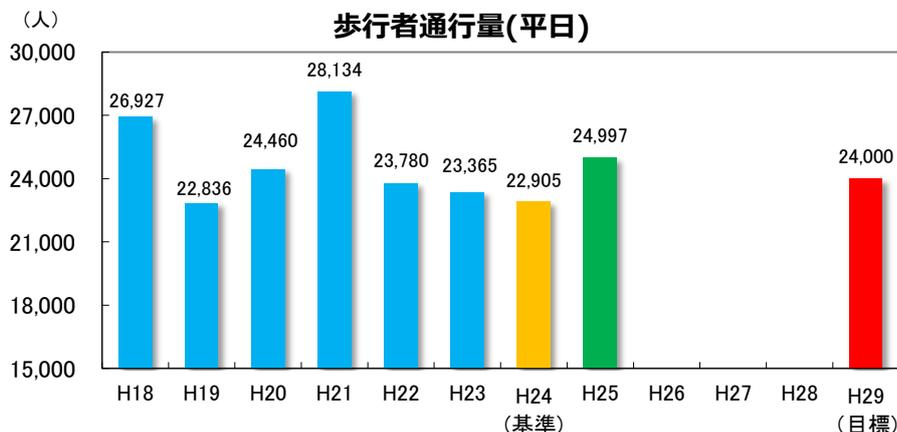
●目標達成の見通し及び今後の対策

本事業については、多少のスケジュールの遅れがあるが、今のところ事業完了時期には変更がなく、ほぼ予定どおり進捗している。

今後も、平成27年11月頃の完成に向けて事業推進を図っていく。

「歩行者通行量（平日）」※目標設定の考え方基本計画P55、P58～P63参照

●調査結果の推移



年	(単位)
H24	22,905人 (基準年値)
H25	24,997人
H26	
H27	
H28	
H29	24,000人 (目標値)

※調査方法：歩行者について、毎年7月の第1週金曜日9～20時で計測

※調査月：7月

※調査主体：帯広商工会議所

※調査対象：中心市街地内18地点（ふじまるビルからJR帯広駅付近までの地点）における歩行者の通行量

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 広小路アーケード空間を活用した集客・回遊・滞留事業（帯広広小路商店街振興組合）

事業完了時期	平成29年度【実施中】
事業概要	平成23年に改修した広小路アーケードの空間を活用し、「七夕まつり」、「中城ふみ子の歴史展」、「スイーツフェア」などのソフト事業を実施する。
事業効果及び進捗状況	「七夕まつり」「帯広まちなか歩行者天国」「市民の足型パネル事業」など、商店街においてアーケード空間を活用した各種ソフト事業を展開している。 平成25年の歩行者通行量調査では、本商店街付近の地点での顕著な通行量増加は見られていないが、アーケードの改修効果もあり、商店街に3店舗の入居があるなど、空き店舗は減少している。今後、さらに事業効果を高めるため新たな事業の実施についても検討していく。

●目標達成の見通し及び今後の対策

平成25年度において、計画に位置づけた各事業の実施により目標値は達成しているが、歩行者通行量はさまざまな要因により変動することから、引き続き活性化に向けた取り組みを進めていく。

②. 開広団地再整備事業※再掲（帯広市開広団地地区第一種市街地再開発事業個人施行者）

事業完了時期	平成26年度【未】
事業概要	過去に卸売団地として整備された地区において、機能の更新を図るため、高齢者向けの居住機能、デイサービス、賃貸住宅、商業施設などを有する施設の整備を行う。
事業効果及び進捗状況	平成26年3月末時点において、実施設計及び従前建物の除却を完了しており、同年4月より本体工事に着手する。 本事業による街なか居住者の増加、商業施設の整備や地区で雇用される従業員で、430人程度の歩行者通行量の増加を見込んでいる。

●目標達成の見通し及び今後の対策

本事業では、居住人口の増加の他に、商業施設整備による来客と従業員の外出などの消費により、歩行者通行量の増加に繋げることを目標としている。現在、飲食等のテナント入居を予定していることから、計画のとおり目標達成に寄与するものと考えている。

今後も、平成27年2月頃の完成に向けて事業推進を図っていく。

③. 西2・9西地区優良建築物等整備事業※再掲（医療法人社団 博愛会）

事業完了時期	平成27年度【未】
事業概要	大型建築物の移転跡地に高齢者向けの住居やサービス施設、商業施設などの複合施設を整備する事業
事業効果及び進捗状況	平成26年3月に実施設計を完了しており、平成26～27年度で本体工事を実施する予定である。 本事業による街なか居住者の増加や商業施設の整備により、390人程度の歩行者通行量の増加を見込んでいる。

●目標達成の見通し及び今後の対策

本事業については、居住人口の他に、商業施設の整備による来客によって歩行者通行量の増加に繋げることを目標にしている。現在、物販、飲食等のテナント誘致に取り組んでいることから、計画のとおり目標達成に寄与するものと考えている。

今後も、平成27年11月頃の完成に向けて事業推進を図っていく。